

# 令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 庄原市立東城小学校 堀 智仁  
第5学年 1組 34名

## 1 単元名 文化を受けつぐことについて考えたことをまとめよう

「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」（東京書籍 「新編 新しい国語 五」）

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと（1）ウの指導事項「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」及びオの指導事項「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」を受けて設定している。

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力を育成するためには、読む目的を明確にして、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成することが必要となる。本教材は、図や写真を豊富に使い、和の文化、特に和菓子について説明された本文に加えて、教材文には触れられていないことを知るができる和菓子職人へのインタビュー記事で構成されている。それらの図や写真、インタビュー記事を本文と結び付け、教材名の「和の文化を受けつぐ」とは何を意味するのかを考えながら読むことで、精査・解釈する力を身に付けることができる。

また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力を育成するには、まずは文章を読んで理解したことを既存の知識や理解した内容と結び付けて解釈すること、つまり文章の内容が十分に「記号接地」できていることが必要となる。本教材は、「和菓子」という、第5学年の児童であれば児童が一度は見たり食べたりしたことがある題材であり、誰しも何らかの知識や経験を有していると予想される。教材文の結論部分には筆者が考える和菓子の魅力や日本の文化を受けついでいくことに関する筆者の考えがあり、インタビュー記事の内容を結び付けて読むことで、筆者の考えについて別の角度から再度解釈することができるであろう。こうして文章を読んで理解したことと、児童一人一人の知識や経験を結び付けることで、自分にとっての「文化を受けつぐ」とは何かということについて、自分の考えを形成することができる。

以上のことから、本単元で設定したねらいに迫ることに適した教材であると考えられる。

### (2) 児童観

本学級の児童は、1学期の説明的な文章「インターネットは冒険だ」を読む単元において、叙述を基に、文章全体の構成をとらえて要旨をまとめる学習を行った。文章を序論・本論・結論に分け、要旨をまとめることができた。一方で、「考えの形成」の学習過程においては、どのように経験や知識と結び付けて考えを形成するのかが分からない児童が多かった。

次に、「広島県学びの基盤に関する調査」の結果（一部抜粋）を示す。

「広島県学びの基盤に関する調査 かずとかたち・かんがえるたつじん その3」より

問題8（3）の児童の回答状況

選択肢	人数	割合
1（正答）	23人	71.8%
2	2人	6.3%
3	5人	15.6%
4	1人	3.1%
?	1人	3.1%

問題9の児童の回答状況

(1) 双葉→アサガオ

正誤	人数	割合
◎	22	68.8%
○	0	0.0%
×	10	31.2%

(2) でんしゃ→のりもの

正誤	人数	割合
◎	17	53.2%
○	7	21.8%
×	8	25.0%

※ ◎は組合せも矢印の向きも正解  
○は組合せのみ正解（矢印が逆、線で結んである等）  
×は組合せ不一致、未答

8「数、形、配置の3つの次元を同時に注目する類推」では、3割弱の児童が正しく回答していない。9「関係発見類推」の(1)では、約3割の児童が「双葉」と「アサガオ」を結ぶことができていない。「双葉」から「アサガオ」に成長するという関係に気付いていない児童が多かった。関係は知っていたが、例と同様のつながりがあることに気付いていない児童もいた。(2)では、「でんしゃ」と「のりもの」をつなぐことができていない児童が多かった。これは、電車に乗る経験が少ないことも関係していると考えられる。また、組合せは正解しているが矢印の向きを逆にした児童も2割強いる。こうしたことから、情報と情報をつなげる際の関係性を理解するのが難しい実態がある。

本単元では、文章と文章、文章と図表など、多くの要素を結び付けながら必要な情報を見付ける力を身に付けさせることをねらいの一つにしており、何と何に着目して結び付けるのかを見いだせなかったり、着目すべき要素に気付いても、その関係性の理解ができなかったりといったつまずきが想定される。何のために文章と図表を結び付けているのか、という目的を確かめながら学習を進める必要がある。

そのほかに、「広島県学びの基盤に関する調査」により、語彙の少なさや、数の概念の弱さといった実態も明らかになっている。児童にはなじみのない言葉や表現が多数出てくるため、児童のつまずきの状況に応じて語彙レベルでの理解を図ることや、正確に文章を読み取っているか、資料として挙げられている年表が正しく読めているか、といった確認をする必要がある。

(3) 指導観

指導に当たっては、文章を読んで考えを形成するために欠かせない、児童の既存の知識や経験を結び付けながら読むことを行うため、昨年度、総合的な学習で調べた東城の和菓子「竹屋饅頭」について想起させる。児童は郷土の伝統の一つとして「竹屋饅頭」に愛着をもっており、「竹屋饅頭」の職人の努力や苦労などの知識も豊富である。単元の冒頭において教材の扉ページの写真を見ながら、また文章を読みながら想起されたことなど、折に触れて4年生の時に調べて分かった内容を意図的に言語化させ、クラス全体で共有しながら読んでいく。

児童によっては、語句レベルの理解、文としての意味理解、文章の意味理解といったことに困難さがあるため、前もって教師と音読練習をしながら意味の確認をし、単元の学習においては内容をしっかり考えることができるようにしておく。

また、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける際には、認知的な負荷を下げて考えることができるように、児童の実態に応じて、文章を四角で囲ませる、色分けする、不要な部分は隠すといった方法を児童自身に選ばせながら学習活動を進める。その際、読む目的を明確にすることが大切であるため、「文化を受けつぐ」とはどういうことなのかを考えるために必要な情報を見付けよう」と児童に呼びかけてから文章を読むようにする。

文章を読んで形成された考えをまとめる際には、前の活動で整理した「文化を受けつぐ」とはどういうことだと理解したか」ということに対して、自分はどのように考えるか、どのように行動していきたいか、ということについて書きまとめることとする。「文章の解釈」と「解釈したことに対する考え」の違いが分かるように学習を進めていきたい。

### 3 単元の目標

- 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使うことができる。

[知識及び技能] (2) イ

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

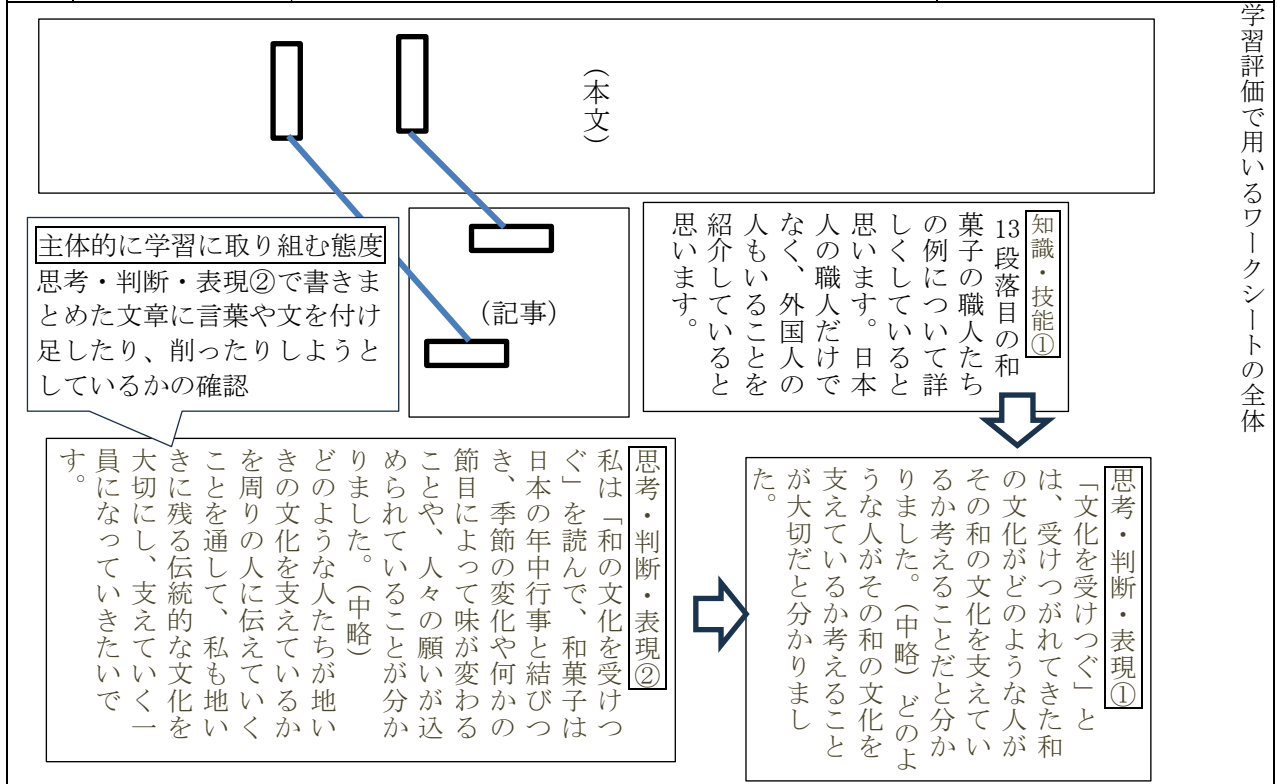
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。( (2) イ)	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。(C (1) ウ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1) オ)	① 粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを書き表そうとしている。

〈評価の具体及び手立て〉

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】		「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。( (2) イ)	インタビュー記事の内容が教材文のどこを詳しくしているか考え、インタビュー記事と本文を線で結び、どうして関連付くと考えたか、理由を書く。 (例) ・ P155・1行目と P157・1行目を線で結んだ児童 13 段落目の和菓子の職人たちの例について詳しくしていると思います。日本人の職人だけでなく、外国人の人もいることを紹介していると思います。 ・ P156・3行目と P157 の最後の行を結んだ児童 「味わい楽しむ多くの人に支えられている」は、記事の最後の行の「お客さんが喜んでくれば、うれしい」ことにつながると思います。職人さんがお客さんに支えられていることを話していると思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事と本文を関連付ける前に、写真や図表がない本文に適した写真や図表を選ぶ活動を行い、情報と情報とを関係付けることの方法や意味が分かるようにしておく。</li> <li>結んだ理由を文章にすることが難しい場合は、単語で書くことや、本文から語句を抜き出すことができるようにする。</li> </ul>
思考・判断・表現①	「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。(C (1) ウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「文化を受けつぐ」とはどのようなことかを読み取るために、教材文とインタビュー記事を結び付け、必要な情報を見付ける。</li> <li>(例) 「文化を受けつぐ」とは、受けつがれてきた和の文化がどのような人がその和の文化を支えているか考えることだと分かりました。文化そのものを受けつぐことは考えていても、その文化を支えている人については受けつがれていないとその文化にこめられた思いや大変さを知ることができないから、どのような人がその和の文化を支えているか考えることが大切だと分かりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1時で考えた「文化を受けつぐ」との違いに注目できるようにする。</li> <li>思考・判断・表現②と混同しないよう、教材文やインタビュー次期を読むことで、文化を受けつぐとはどんなことだと「分かった」かを書くように促す。</li> </ul>

<p>思考・判断・表現②</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ)</p>	<p>文章の内容について理解したこと①を基に、考えたり理解したりしたとと既存の知識や経験を結び付けて②考えをまとめている③。</p> <p>(例) 私は「和の文化を受けつぐ」を読んで、和菓子は日本の年中行事と結びつき、季節の変化や何かの節目によって味が変わることや、人々の願いが込められていることが分かりました①。</p> <p>わたしは今まで4年生の総合の時間で、「竹屋饅頭」について調べ、和菓子職人の大変さに気付かされました。しかし、この教材を読むまで和菓子職人は日本人ばかりだと思い込んでいました。外国人の職人がいることを最後の資料から知り、どのような人が和菓子を支えているか考えるきっかけになりました②。</p> <p>文化を支えている人についても知っていないとその文化にこめられた思いや大変さまで考えることができません。どのような人たちが地いきの文化を支えているかを周りの人に伝えていくことを通して、私も地いきに残る伝統的な文化を大切に、支えていく一員になっていきたいです③。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和菓子について今まで知らなかったことや自分が思い込んでいたことなどを考えることを通して、教材を通して初めて知ったことや考えたことを書くようにする。(和菓子職人に外国人がいることや、和菓子の見た目が紅葉のものがあることなど)</li> <li>教材文の要旨とつなげながら考えられるようにする。</li> </ul>
------------------	---------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>粘り強く、文章を読んで理解したことをまとめ、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを書き表そうとしている。</p>	<p>再度、図や文章を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、まとめた自分の考えを再度まとめ直したりしながら、必要に応じて考えを書き表したものに言葉や文を付け足したり、削ったりしようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の児童が書き表した文章を参考にすることや、友だちの学習方法などが参考にできるように交流する場を設ける。</li> </ul>
----------------------	----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------



5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	○学 習 内 容 ◇指導上の留意点 ◎本 時	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
		<p>(単元前)</p> <p>◇文章の内容理解に課題があると予想される児童には予め本文の音読練習をしておき、スムーズに学習に入れるようにする。</p> <p>◇学習内容に関連する図書を教室に置いておき、並行読書させることで、児童の興味・関心を広げたり文章の内容理解に必要な知識を補ったりできるようにする。</p>				
一	1	<p>○教材の扉ページや教材の題名から想起できることを話し合う。</p> <p>◇教材文の内容につながるよう、4年生の総合的な学習で調べた東城の和菓子「竹屋饅頭」について知っている事柄を想起させる。</p> <p>◇和の文化とは何なのか話し合ったり、「文化を受けつぐこと」とはどのようなことなのか考えたり、「和菓子をさぐる」の「さぐる」という意味を辞書で確認したりし、教材文の内容に関連する基本的な知識がもてるようにする。</p> <p>◇教材文の資料の年表を用い、東城にある伝統的な行事や和菓子ができた年に印をつけ、歴史の長さについて実感を伴った理解ができるようにする。</p> <p>○教材文を通読し、初発の感想や疑問に思ったことを交流し、付けたい力を共有した後、学習計画を立てる。</p> <p>◇学習計画と付けたい力は掲示しておき、児童が学習の見通しをもてるようにする。</p>				
二	2	<p>○文章全体の構成や内容を捉えて要旨を把握する。</p> <p>◇言葉の意味調べを行い、文章に合った意味を考えたり、序論・本論・結論に分けそれぞれの内容を確かめたりすることで、文章の内容を正確に理解できるようにする。</p> <p>◇結論部分に着目させ、筆者の考えを確認することで、この時間以降、本文の要旨を意識して文章を読んでいけるようにする。</p>				

二	3	<p>○教材文と図表とを結び付け、説明されている内容を理解する。</p> <p>◇図表を抜いた教材文を配付し、図や写真と文章を線や印でつなげながら読むことで、図表が文章のどの部分を詳しくしたり補足したりしているのかが理解できるようにする。</p>			
	4	<p>○インタビュー記事と教材文を関連付けて読む。</p> <p>◇二つの文章の内容に着目しながら読み、線を引いたり印を付けたることで、インタビュー記事と本文がどのように関連付いているのか視覚化できるようにする。</p> <p>◇どうしてインタビュー記事が本文の後に掲載されているか考えるよう投げかけることで、次時に考える内容につながるようにする。</p>	○		<p>[知識・技能①] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文とインタビュー記事を結び付けることができているかの確認</li> </ul>
	5	<p>○教材文全体から、「文化を受けつぐ」とはどのようなことだと読み取ったかを書き表す。</p> <p>◇本文の要旨や前時に考えたことを踏まえて書くことで、児童が解釈したことを言語化できるようにする。</p> <p>◇初発の感想で出し合った「文化を受けつぐ」と比較することで、学習を通して文章の内容理解が確かなものになったことを自覚できるようにする。</p>	○		<p>[思考・判断・表現①] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「文化を受けつぐ」ことについて必要な情報を見付けることができているかの確認</li> </ul>
	6	<p>○今までの学習を通して、自分の考えをまとめる。</p> <p>◇まとめる視点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文を通して理解したこと。</li> <li>教材文を読む前の自分と今の自分を比べて、変わったこと。(今までの経験や知識と比べる。)</li> <li>筆者の考えから自分の生活につなげていく。</li> </ul>	○		<p>[思考・判断・表現②] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめることができているかの確認</li> </ul>
	7	<p>○今までの学習を通して、自分の考えを再考しできたものを友達と交流する。</p> <p>◇友達と交流する中で、友達の考えのよさ、自分との違いを認められるようにする。</p>	○		<p>[主体的に学習に取り組む態度①] 児童の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを書きまとめた文章に言葉や文を付け足したり、削ったりしようとしているかの確認</li> </ul>
三	8	<p>○単元全体の振り返りを行う。</p> <p>◇本単元で身に付けた力や本単元における学び方を振り返り、児童の言葉で言語化することにより、本単元での学びをメタ的に自覚し、今後の学びに生かせるようにする。</p>			

6 本時の学習

(1) 本時の目標

「文化を受けつぐ」ことについて、自分の考えをまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 教材文を音読し、本時のめあてを確認する。	○16・17 段落を音読する。前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	
「文化を受けつぐ」ことについて自分の考えをまとめよう。		
2 前時に書いた、教材文を通して「文化を受けつぐ」とはどのようなことか考えたものを交流する。	○「文化を受けつぐ」とはどのようなことか、教材文を基におさえる。 ・どんな人が文化を受けついでいるか考えること。 ・文化を楽しむ人にも多くの支えられていることを考え、文化を楽しむこと。 ◆黒板や教室掲示に、考えを書き表す際に参考にできそうな言葉や文章を残しておく。	
3 教材文を通して、自分たちが「文化を受け継ぐ」ことにおいてできることを考え、交流する。 ○わたしたちは和菓子を作る職人ではないが、「文化をうけつぐ」ためにできることはあるのだろうか。	○「文化を受けつぐ」ために自分たちにできることを考える。 ・地域の和菓子について、味だけではなく、作っている人たちの努力を伝えていく。 ・地域の伝統がある行事に参加して、楽しむことを通して、その行事の楽しさを知らない人たちに伝えていく。	
4 自分の考えをまとめる。	○今まで学習してきたことをつなげることで自分の考えをまとめていく。 ◆板書に残っていることが、考えをまとめる時に使えることに気付くことができるようにする。	○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていく。 (ワークシート)
5 学習を振り返る。		

(3) 板書計画

考えをまとめる視点 (例)

① 「和の文化をうけつぐ」を読んでわかったこと	② 教材を読んで、初めて知ったこと。考えたこと。	③ わたしたちができること
-------------------------	--------------------------	---------------

◎自分の考えをまとめてみよう。

③

・地域の和菓子について、味だけではなく、作っている人たちの努力を伝えていく。  
・地域の伝統がある行事に参加して、楽しむ。楽しさを伝える。

「文化を受けつぐ」ためにわたしたちができることは何だろう。

②

文化を受けつぐ

・文化がどんな人がそれを受けついでいるか考えること。  
・文化を楽しむ人にも多くの支えられていることを考え、文化を楽しむこと。

課 「文化を受けつぐ」ことについて自分の考えをまとめよう。

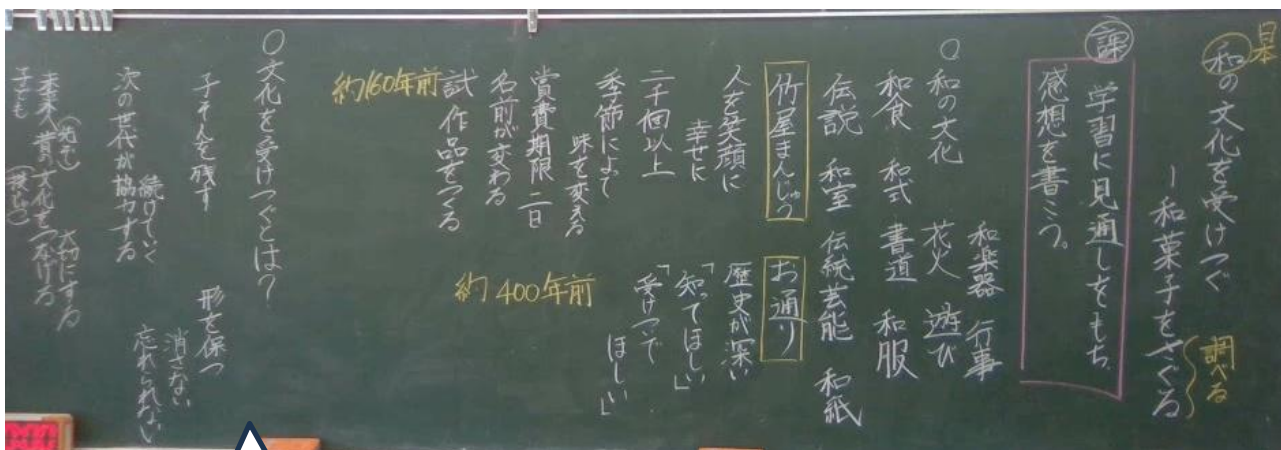
和の文化を受けつぐ

## 7 指導の実際

### (1) 指導上の工夫

#### ア 児童の既存の知識や経験を引き出すこと

第1時に本文の挿絵を見せ、和菓子に関することから、自分が知っている和の文化について児童の既存の知識や経験を引き出した。児童は昨年度の総合的な学習の時間を通して、自分たちが住んでいる東城町の和の文化について学習しており、既存の知識や経験と教材を結び付けていくために児童から知っていることを引き出した。そして、本単元を貫く問いとして、「文化を受けつぐ」とはどのようなことか教材に入る前に児童がもっているイメージを引き出した。



「文化をうけつぐ」ことへのイメージ

第4学年で調べた和の文化

児童が知っている和の文化

題名に使われている言葉の意味理解

#### イ 学習環境の整備

掲示物について、児童の初発の感想と発揮させたい資質・能力を結び付け学習計画を立て、掲示し本単元の見通しをもつことができるようにした。単元に入る前から学校司書と連携を図り、和の文化に関する本を「和の文化コーナー」として学級文庫に取り入れた。

#### ○学習計画



本時の学習の内容、次時の学習内容がわかること、内容同士のつながりをもって授業を進めることができた。授業の振り返りにも参考にできていた。児童の問いも含めることができ、掲示を見ながら学習を進めている児童も多

#### ○関連図書コーナー



第1時で知っている和の文化が少ない児童もあり、和の文化に関する本を読むことを通してイメージが湧く児童が増えた。朝の読書タイムなどで和に関する本を手取る児童が多くみられた。

### ウ ICT機器の活用について

インタビュー記事と教材文を関連付けて読む際、インタビュー記事と教材文で関連している部分を一人1台端末でつなげる活動を行った。また、前時の板書を確認できるよう、学習管理アプリを通じて共有した。

#### ○インタビュー記事と本文をつなげる

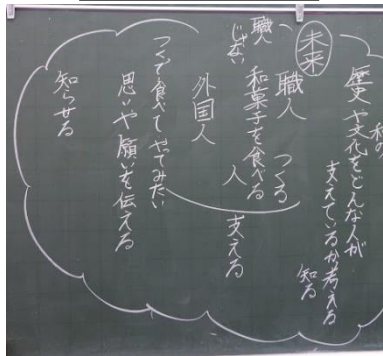


一人1台端末でインタビュー記事と教科書の1ページずつを比較できるようにした。端末で行うことで関連している部分の見つけやすさを感じている児童も多かったが、端末で線を引くことに難しさを感じる児童もいた。文房具と同じように使えるよう、日ごろから使用していく必要がある。

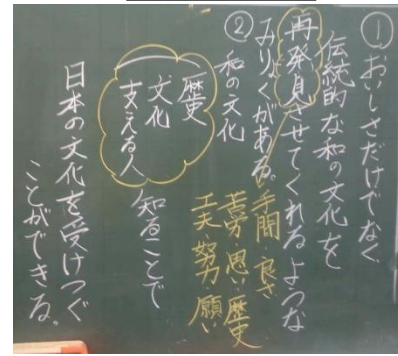
#### ○児童と共有した板書



文化を受けつぐ



筆者の考え



考えを形成する際、文章を考える際の材料として前時の学習を一人1台端末で見返す児童もいた。

#### エ 考えを形成するための工夫

児童が考えを形成しやすいよう、次の3つの視点で、3つの段落に分けてまとめた。

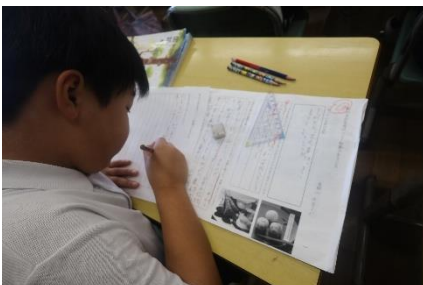
- 1 「和の文化を受けつぐ」を読んでわかったこと。
- 2 「和の文化を受けつぐ」を読んで変わったこと。（「文化をうけつぐ」ことへの考え方など）
- 3 自分にできること、どうしていききたいか。

また、教科書の叙述を基に書くことを意識させた。

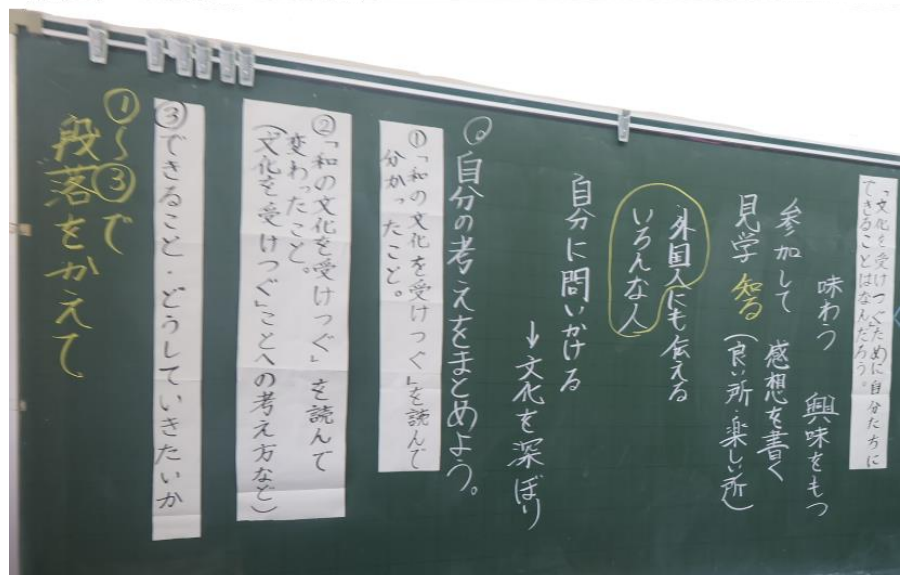
前述のとおり、ICT機器で板書を共有することが考えを形成する材料となったことに加え、今までのワークシートを見返すことで視点に沿って考えを形成することにもつながった。



○教科書をもとにする児童



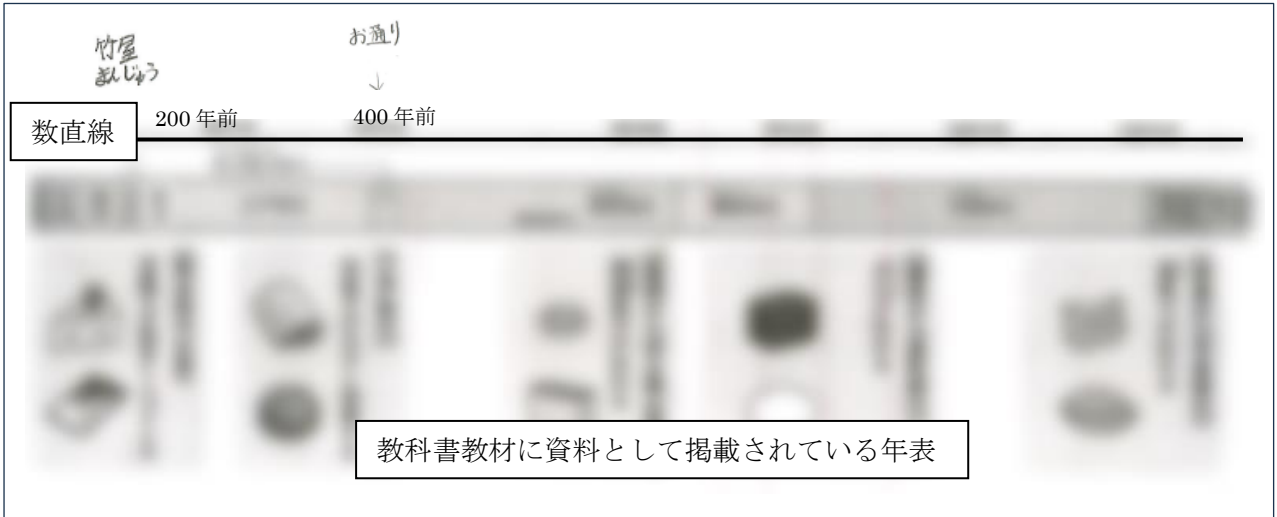
○ワークシートをもとにする児童



(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア 児童のつまずきの把握

児童のつまずきを把握するために「広島県学びの基盤に関する調査」を行った。本教材では、和菓子の歴史を数直線で表していること、和菓子を型に「流す」といった表現が児童のなじみがなくつまずきにつながると想定した。実際に数直線、動作を表す表現への理解に課題が見られ、単元構成に役立てることができた。数直線においては、本単元に入る際に和菓子の歴史を表した数直線上に地域の行事や和菓子がいつから始まったか児童自身が示すことや、生きてきた約10年の何回分かを考えることを通して、数直線が表す時間軸についてイメージをもちやすかった。動作においても、音読をしながら動作化をすることで意味理解を図った。



○文章の内容を理解する上で関連のある事柄を書き込んだ年表

イ 正確に文章を理解できない児童への手立て

全体で教材文に出てくる言葉の意味集調べを行った。初めて教材文を読んだ際、「風情」といった言葉や「奥深い」といった言葉などを見聞きしたことのない児童が多かった。調べる活動の中で辞書に出てくる意味の中でこの教材文に適した意味を考えるように促した。また、個別に音読を行い、1ページ音読した後にそのページに何が書かれていたか確認する、言葉の意味をその児童なりに言い換える学習をした。単元に入る前から行うことで児童が前単元より自信をもって学習に入ることができた。また、認知的な負荷を下げるために、文章にスラッシュを入れることや不要な部分を隠しながら音読を行った。

ウ 読む目的の明確化

児童が教材を読み進める際、読んだ後に発問などをすると、児童は何を目的として音読をすればよいかわからない。単に読むのではなく、本教材で考えていきたい「文化を受けつぐ」とはどのようなことなのかを考えるために必要な情報を見付けよう」と児童に呼びかけてから文章を読むようにした。学習計画の掲示の中にも「文化を受けつぐとはどのようなこと？」といれ、常に意識できるよう視覚化を図った。

エ 教材文と図表を関連付ける

本単元の精査解釈における教材文とインタビュー記事を関連付ける際、始めからインタビュー記事と教材文を関連付けることに難しさを示す児童が多くいた。関連付く内容があっても言葉などの表現が違っていると関連付けられないようであった。そのため、本題に入る前に教材に用いられている図表と教材文をつなぐといった取組を行った。

図表はどのような効果があつて教材に用いられているかが児童の中で分かりやすいため関連付けやすいようであった。



○児童が教材文と写真を結び付けて理解した例

8 評価の実際  
 (1) 評価の具体

知識・技能

「十分満足できる」状況 (A)

本文	記事	関係すると考えた理由
P150 5行目	P154P 1行目	
17~18行目	10行目	1行目
和菓子にはいろいろなお茶相合があるから関係していると思っ た。	季節感をイメージしているから季節感と季節が関係して いると思っ	記事に「グアム出身。て書いてあって本文のさまざまな文化と 開わりながら、と書いてあるから外国との開わりがある と思っ

本文とインタビュー記事の内容を本文  
 や記事に書かれている言葉から関係性  
 を見付け結び付け、結び付けた理由を  
 まとめている。

「おおむね満足できる」状況 (B)

本文	記事	関係すると考えた理由
P155 14行目	P155 6行目	
13行目	グアム... くすし...	5行目
食べる人	日本 日本文化にしたしむ	10行目
		7行目
		季節を感じてる
		形は大切だけど外国の人はよくわからないから

本文とインタビュー記事の内容を本文  
 や記事に書かれている言葉から関係性  
 を見付け結び付けている。

思考・判断・表現①

「十分満足できる」状況 (A)

文化を受けつぐのはいろいろな人、自分たちまでしかできないこと  
 職人は和菓子を作り、ほかの人は和菓子を食べてたり、和菓子をいろいろな  
 人に広める。歴史、文化、支える人を知ると、つのも和菓子の文化を受け  
 つぐことだと思ふ。和の文化は和菓子を食べていただけじゃなくて、いろいろな物  
 を考えるといふと思ふ。文化は作ってみたい、やってみたい、食べてみたいなどの  
 思いもいろいろある。好きなものがいろいろある。いろいろ思ふ、いろいろ知ったり  
 して、自分が人にしてあげたいと思ふ。

「文化を受けつぐ」とはどのようなことか  
 を読み取るために、教材文とインタビュー  
 記事を結び付け、必要な情報を見付け、  
自分の考えも示しながらまとめている。

「おおむね満足できる」状況 (B)

どんな歴史や文化との関わりがあるのか  
 考え調べたり、  
 世間からある文化を大切にしてたり、  
 ・文化に関わる人を支えたりすること。

「文化を受けつぐ」とはどのようなこ  
 とかを読み取るために、教材文とイン  
 タビュー記事を結び付け、必要な情報  
 を見付け、まとめている。

形成した考えを記述するワークシートに、自分が教材文を読む前にもっていた既有的知識と学習を  
 通して文化を受けつぐとは何か理解したことを結び付けて教材文を読んでからの自分の変容を記述し、  
 自分にできることを記述している児童。

思考・判断・表現②

「十分満足できる」状況 (A)

①和の文化は、いろいろが始まり方があるけど、  
どれもおくが深く、人のマカクヤ協力で受けつがれていま  
ことと、日本のみ力を再発見させてくれる、力  
があるよハカかった。  
和の文化を受けつぐことは、読む前はその文化にか  
かかっている仕事をしている人達だけがするかと  
かと思っっていたけど、この話を読んで、文化を受  
けつぐことは、私達のような子供でも関わって  
協力しているんだと分かった。文化を受けつぐことには、  
いろんな人が、支え合っ、協力してできていると分かった。  
文化を受けつぐために私は、その文化(行事)に  
参加できたら参加して、よかったことやたいへんだった  
こと、がんばったことを、書いたり、人に話してその  
文化を伝えて広めていきたいと田んた。

文化を受けつぐために私はその文化(行事) 参加  
できたら参加して、よかったことやたいへんだった  
ことを、がんばったことを・・・  
伝えて広めていきたいと思った。

文化を受けつぐことは、読む前はその文化にか  
かかっている仕事をしている人達だけがするかと思  
っていたけど

形成した考えを記述するワークシートに、自分が教材文を読む前にもっていた既有的知識と学習を  
通して文化を受けつぐとは何か理解したことを結び付けて教材文を読む前と読んだ後の変容について  
記述し、自分にできることを記述している児童。

「おおむね満足できる」状況 (B)

わたしは、どんな人がそれを支えているのかを考えることで、日本の文化を受けついでいくことが分かった。そして季節節によっていろいろなふうしたり年中行事などに合わせを作ったり、和菓子の職人も和菓子を食味しむためにいろいろなふうしていることがわかりました。

わたしは、和の文化を受けついでを讀んで和菓子の文化を続けるために和菓子をたべたり和菓子についていろいろと思った。

文化を受けついでするためにはついでをできることがあったら協力する。ポスターやパンフレットをつくり、文化のたいせつさをしょうかいする。その文化に参加し良い所、楽しい所などの感想を書いて書き友達や先生につたえる。ポスターやパンフレットにいかいでもじぶんのことは、やじ、ごいになんかでもらうというのでもいいと思った。

その文化に参加し良い所、楽しい所などの感想を書き友達や先生につたえる。…

和菓子の文化を続けるために、和菓子を食べたり、和菓子について知ろうと思った。

形成した考えを記述するワークシートに、自分が教材文を読む前にもっていた既有的知識と学習を通して文化を受けつぐとは何か理解したことを結び付けて自分にできることを記述している児童。

主体的に学習に取り組む態度

「十分満足できる」状況 (A)

再度、粘り強く図や文章を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、まとめた自分の考えを再度まとめ直したりしながら、必要に応じて考えを書き表したものに言葉や文を付け足したり、削ったりしようとしている。

何度も自分が書いた文章のわかりづらさを感じる箇所や、自分の伝えたい箇所に必要に応じて文を付け足したり削ったりする児童もいた。

「おおむね満足できる」状況 (B)

再度、図や文章を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、まとめた自分の考えを再度まとめ直したりしながら、必要に応じて考えを書き表したものに言葉や文を付け足したり、削ったりしようとしている。

## (2) 児童の評価

- 知識・技能  
「十分満足できる」状況…5人(15%)  
「おおむね満足できる」状況(B)…26人(76%)  
「努力を要する」状況(C)…3人(9%)
- 思考・判断・表現①  
「十分満足できる」状況…4人(12%)  
「おおむね満足できる」状況(B)…25人(74%)  
「努力を要する」状況(C)…5人(14%)
- 思考・判断・表現②  
「十分満足できる」状況…2人(6%)  
「おおむね満足できる」状況(B)…25人(74%)  
「努力を要する」状況(C)…7人(20%)
- 主体的に学習に取り組む態度  
「十分満足できる」状況(A)…3人(9%)  
「おおむね満足できる」状況(B)…24人(71%)  
「努力を要する」状況(C)…7人(20%)

## 9 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 第4学年の総合的な学習で調べた地域の和菓子について単元の導入で想起することで既存の知識と経験が教材文や、和菓子の年表と結び付き、記号接地が図りやすかった。また、和の文化に関わる知識においても学級文庫に伝統関連の本を置くことにより、児童が手に取り、教材文への理解に結び付いた。このような教材文と児童の既存の知識や経験を結び付けることは、児童の文書理解を促し、思考・判断・表現の自分の考えをまとめる際、教材文と自分の既存の知識や経験を自然と結び付けて書くことができるようになって感じた。
- ・ 今までの板書や資料、学習したワークシートを学習支援アプリ等に掲載し、児童が活用できるようにしておくことで、学習の積み重ねを児童自身が確認できるようになり、考えの形成の際は、それらを見返しながら自分の考えをまとめることができた。
- ・ 学習計画を児童と立て、掲示物を作成することで、児童が各時間の学習課題や単元のゴールについて把握することにつながった。個別の音読指導を行うことで、今までの単元では文章理解、文章を書くことに難を示す児童が前単元よりスムーズに考えの形成の学習に取り組むことができていた。これらは大きく主体的に学習に取り組む態度に影響した。学習計画があることで児童がこの単元で身に付けたい資質能力に向かって学習計画に沿って、目標があるため、他単元より粘り強く取り組むことができていた。個別の音読指導も文章理解を促し、考えの形成も少しずつ書くことができ、自信につながり粘り強く書ききることができていた。

### (2) 課題

- ・ 知識・技能において、インタビュー記事、教材文それぞれの内容は理解している児童は多いように思えたが、2つの資料を見比べながら関連付けることが難しい児童が多かった。
- ・ 思考・判断・表現において文章理解したことを書く際、分かったことを羅列すればよいと考え、既存の経験や知識と結び付けながら書くことが難しい児童もいた。また、既存の経験や知識が児童によって差があるため、書きづらさを示す児童もいた。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度では、自分の考えを再考する際、どこをどのように書き直せばよいか分からない児童もいた。

(3) 今後に向けて

- ・ 普段から、複数の資料を用意し、見比べながら読解し、関連付くところなどを探することができるようにする。
- ・ 児童が自分の力で考えの形成に取り組むことができるよう、低学年段階から考えの形成について評価規準を明確にし、学校全体で学習に取り組む必要がある。また、文章を記述する際、文章のつながりを意識できるように指導していく。
- ・ 本など、正しく書かれた文章や工夫されて書かれた文章にたくさん触れることを通して、自分自身が文章を書く際、よりよい文章とはどのようなものか考えることができるようにする。
- ・ 児童の今までの生活経験やつまずきを単元前や授業を進めていく中で把握していく。児童ができないことに悲観的になるのではなくつまずきを分析し、どのようにしたらできるようになるのかを考えていきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
子どもに伝えたい和の技術〈1〉 寿司	和の技術を知る会	文溪堂
子どもに伝えたい和の技術〈2〉 和紙	和の技術を知る会	文溪堂
子どもに伝えたい和の技術〈3〉 花火	和の技術を知る会	文溪堂
子どもに伝えたい和の技術〈4〉 和菓子	和の技術を知る会	文溪堂
子どもに伝えたい和の技術〈5〉 あかり	和の技術を知る会	文溪堂
子どもに伝えたい和の技術〈6〉 和楽器	和の技術を知る会	文溪堂
日本の伝統文化を知る絵本3 知って楽しい花火のえほん	冨木 一馬／写真と文	あすなる書房
日本の伝統文化を知る絵本4 着物のえほん	高野 紀子	あすなる書房
日本の伝統文化を知る絵本5 和菓子の絵本—和菓子っておいしい！	平野 恵理子	あすなる書房
めづめづ和文化研究所 京都	小栗 左多里、トニー・ラズロ	ゆびさし
日本の伝統文化仕事図鑑 工芸・建築・服飾ほか	ワン・ステップ／編	金の星社
日本の伝統文化仕事図鑑 芸能・芸術・武道・食ほか	ワン・ステップ／編	金の星社